
令和7年度 第5回岩手県大規模事業評価専門委員会

日 時 令和8年1月6日（火）14:00～16:00

場 所 エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 挨 拶

狩野専門委員長

3 議 事

大規模施設整備事業の事前評価について<継続審議>

岩手県立農業大学校施設整備事業（金ヶ崎町）

4 閉 会

岩手県大規模事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

氏 名	職	専門分野	備 考
狩野 徹	佐久大学人間福祉学部 教授	都市計画 建築計画	専門委員長
島田 悦作	岩手県立大学総合政策学部 准教授	財政学 農業経済学 環境経済学	
竹内 貴弘	八戸工業大学大学院工学研究科 教授	海洋工学 水工学	
濱上 邦彦	岩手大学農学部 准教授	農業土木 水工学	
松木 佐和子	岩手大学農学部 准教授	森林 環境	
松山 梨香子	一般財団法人岩手県建築住宅センター 一級建築士	建築	
八重樫 健太郎	北光監査法人 公認会計士	企業会計	
山本 英和	岩手大学理工学部 准教授	地震工学	副専門委員長

(敬称略)

令和7年度第5回大規模事業評価専門委員会
配付資料一覧

- 資料 No. 1 大規模事業評価専門委員会の審議概要

 - 資料 No. 2 大規模事業評価についての県民意見募集の実施結果

 - 資料 No. 3 大規模施設整備事業事前評価 継続審議資料
 - ・岩手県立農業大学校施設整備事業（金ヶ崎町）
-
- 参考資料 答申書（案）及び審議結果報告（案）

大規模事業評価専門委員会の審議概要

1 審議対象（事前評価 1 件）

事前評価

・岩手県立農業大学校施設整備事業（金ケ崎町）

2 審議状況

諮問審議・現地調査 令和7年11月11日 第4回大規模事業評価専門委員会

3 主な質疑等の概要など

岩手県立農業大学校施設整備事業（金ケ崎町）【事前評価】

質疑等の概要	
専門委員からの質疑等	事業担当課の対応（回答）
① 第4回専門委員会 農業科学博物館の入館料収入が低迷しているとのことだが、現在の場所（北上市）と農業大学校の現在地（金ケ崎町）とのアクセス面での集客の違いを検討していれば教えて欲しい。	【農業普及技術課】 農業科学博物館の現在の場所は、花巻市と北上市を結ぶ県道沿いで、交通量が多い所にあり、これまでの利用状況として、主に小学校や保育園の遠足の途中で立ち寄っていただくことが多いのが特徴である。 一方、農業大学校の敷地には、隣接して県立花きセンターがあり、年間18,000人が、花を見に訪れていることから、その足で今度は本県の農業の歴史を学んでいただくような流れにしていきたいと考えている。
② 第4回専門委員会 農業大学校の対象者は、学生や農業者等とのことだが、普通高校や農業高校の卒業者、一般の農業者など、入学者の内訳を教えて欲しい。 また、盛岡農業高校特別専攻科との違いについても教えて欲しい。	【農業普及技術課】 入学者の内訳については、高校卒業後の入学者がほとんどで、近年の状況として、65%が農業高校の卒業者となっている。 また、盛岡農業高校特別専攻科との違いについては、農業大学校は、これから農業に従事したい方が入学しているのに対し、盛岡農業高校特別専攻科は、すでに実家で農業を始めている方が農業に従事しながら、さらに知識を蓄えるために入学していることが多い。
③ 第4回専門委員会 昔の1学年130人程度から、徐々に少なくなっており、現在は50人程度で一定になっているとのことだが、県内の高校卒業者数がこれから非常に少なくなる中で、10年後に完成してからも50人を維持できるのか心配されるが如何か。	【農業普及技術課】 1学年130人程度は、30年前、学部・学科が現在よりも多かった時期の人数で、20年前から60人程度で推移している。 ご指摘のとおり、今後も少子化が進み、県内の高校卒業者数は、現在の1学年1万人弱程度から、10年後には、おそらく、6,000人から7,000人程度まで減少すると見込んでいるが、高齢化で農業者数が減少する中で、本県の農業を支える人材を育成していくためには、現状の1学年50人を維持していきたいという強い思いで設定している。

④	<p>第4回専門委員会</p> <p>農業の形が大きく変革している時代であり、次世代のリーダーを育成するという目的のために、記載のとおり、スマート農業等、特にICTの活用が重要になってくると思われる。その中で、スマート農業等のカリキュラムの充実ということが書かれているが、そのような新しい教育内容に対応できるための空間づくりについての考え方を教えて欲しい。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>スマート農業への対応については、建物自体は普通の学校と変わらないが、現在は、タブレットやパソコンを持ち歩いて学習するのが一般的になっていることから、そうした環境に対応していきたいと考えている。建物以外の設備や機械導入等については別途予算が必要となることから、建設を進めながら、国の補助事業や交付金などを研究し、より良い学習環境を整備したいと考えている。</p> <p>また、スマート農業は、特に機械やアプリ、ソフトウェアの進歩が目覚ましい中で、農業機械メーカーや販売店、ベンチャー企業等とも連携しながら、授業カリキュラムに盛り込んでいきたいと考えている。</p>
⑤	<p>第4回専門委員会</p> <p>収支計画について、収入見込みが1,000万円程度、支出見込みが4,400万円程度となっているが、スマート農業への対応等の機能強化の観点を踏まえているのか。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>収入見込みは、一人当たり年間118,800円の授業料等で積算している。また、支出見込みは、管理運営費と光熱水費を計上している。</p> <p>なお、収支計画には記載していないが、国の農業普及事業交付金が年間7,000万円程度あり、今後も職員の人件費や、機能強化等の外部講師に対する謝金等への充当を見込んでいる。</p>
⑥	<p>第4回専門委員会</p> <p>現在の国公立大学の授業料は、年間55万円程度で、それでも運営が厳しいということで色々な大学が10万円程度引き上げているが、農業大学の授業料の年間118,800円の位置付けや、どのように高校生への周知を図っているか教えて欲しい。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>農業大学の授業料は、県立高校と同じ金額である。農業大学は全国42道府県にあるが、大体同様の設定となっている。</p> <p>授業料の他に、寮費についてもアパートを借りるよりも低廉に生活できる場所も含めて、県内の高校を訪問して、農業大学の良さや魅力をPRしている。</p>
⑦	<p>第4回専門委員会</p> <p>これまでの経緯の検討状況について、27億円規模の事業であるにも関わらず、検討期間が半年程度で今日に至っているように受け取れるが如何か。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>検討懇談会は、今年度設置し、基本構想案について意見交換いただいたものだが、それ以前に、農業大学の立ち位置や入学者・卒業者の状況等の現状分析を2年程度かけて行ってきたところ。その中で、農業者や農業関係団体、農業高校の先生方などから意見を伺いながら、基本構想の素案を作成し、今年6月から検討懇談会で検討を行ったものである。</p>
⑧	<p>第4回専門委員会</p> <p>検討懇談会ではどのような意見が出されたのか、基本構想の内容が分からず、整備の必要性の流れが把握できなかったため、次回教えて欲しい。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>今回説明（資料No.3）</p>

⑨	<p>第4回専門委員会 農業科学博物館の解体後の跡地の利用計画はあるか。</p>	<p>【農業普及技術課】 現時点では未定である。</p>
⑩	<p>第4回専門委員会 農業科学博物館の建物は、築年数がそこまで経っていないようなので、移転後に、例えば調理施設や加工施設にするなど、何かに利用できないかという印象を受けたが如何か。</p>	<p>【農業普及技術課】 例えば農産物加工については、新しく建てる農業大学校にも加工実習室を整備したいと考えている。今までは学生の実習室としていたが、新しい施設では、一般の農業者等が新たに6次産業化に取り組むために実習したい場合も対象にしていきたいと考えている。 なお、財源として、公共施設等適正管理推進事業のうち集約化・複合化事業、いわゆる集約化債に充てる地方債を活用することとし、2つの機能を持つ建物を1箇所合築整備することで、県の財政負担の軽減を図ることから、移転後は、農業科学博物館を解体する方針としている。</p>
⑪	<p>第4回専門委員会 財源として地方債を活用するとのことだが、必要な財源であれば、それに応じた調達方法があると思うので、最初から制約を課すのではなく、もう少しフレキシブルに検討すべきではないか。</p>	<p>【農業普及技術課】 財源については、公共施設等適正管理推進事業に限定して検討してきたわけではなく、例えば地方創生関係の交付金など複数の財源について検討してきたところ。その上で、集約化債の活用により、一般債で単独整備する場合と比較して、8億円から9億円程度の県費の削減が可能と試算したものである。</p>
⑫	<p>第4回専門委員会 農業大学校は、非常に自然豊富なところで農業を学べる場所だと感じた。さらに農業科学博物館が一体になることで、農業を学びたい人だけでなく、広く学べる場を提供できる空間になって面白い施設になると思われるが、設計業者の選定方法については、例えばプロポーザルで選定するなど、具体的にどのように考えているか。</p>	<p>【農業普及技術課】 設計業者は、プロポーザルで選定したいと考えている。検討懇談会の中で出されたアイデアもプロポーザルの仕様に盛り込むとともに、専門家の意見も伺いながら、設計業者の選定後も設計に盛り込む内容を引き続き検討していきたいと考えている。</p>
⑬	<p>第4回専門委員会 実際に工事を発注するまでの物価上昇やコスト増加についての今後の試算や、それに対応できる体制が取られているか教えて欲しい。</p>	<p>【農業普及技術課】 現在の工事費は、国土交通省が示す最新の新営予算単価に基づき積算している。今後設計に入り、当初見込みよりも高くなることが想定されるが、専門家の意見を伺いながら、財政的な部分を含めて関係者間で検討していく必要があると考えている。</p>
⑭	<p>第4回専門委員会 施設の建替え前後で延床面積が大きく縮小となっているが、部屋ごとの用途一覧はあるか。</p>	<p>【農業普及技術課】 建物全体の延床面積は、あくまで一人当たり面積から基礎面積を出して計算したものであり、部屋ごとの間取りについては、今後の基本設計で総面積から割り付けることとなる。</p>

⑮	<p>第4回専門委員会</p> <p>諸室内訳の「展示室」が博物館部分に相当すると思われるが、延床面積が調理実習室と合わせても 195 m²で、展示室だけだとさらに小さいと思われる。農業科学博物館はもともと 1,500 m²程度あるため、そもそも収蔵品が収まるのか、あまりに規模が小さくなり、ただの収蔵室になってしまうのはもったいないと考えるが如何か。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>収蔵品をこの展示室に押し込めるということではなく、収蔵庫については、他の県有施設を活用しながら保存していくことで考えている。</p> <p>また、現在の農業科学博物館では、常設展示で広大な施設内を歩きながら、昔の農業の歴史を見たりできるような展示方法だが、集約後は、そういった展示ではなく、例えばデジタル化なども検討しながら工夫して進めていきたいと考えている。</p>
⑯	<p>第4回専門委員会</p> <p>大学は平日昼間が中心で、展示関係はおそらく休日の方が、来客が見込まれると思うが、展示室も大学が運営するのか、複合施設として別な主体が運営するのか。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>平日だけでは対応できないことから、展示室の運用についても今後検討していく。</p>
⑰	<p>第4回専門委員会</p> <p>エアコンを新たに設置したり、スマート農業に対応した学習環境を整備したりということで、消費電力が非常に大きくなり、これまでより電気代がかなり上がることが想定されるが如何か。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>エアコンについては、今まで無かったものを新しく付けるため電気代がかかることとなるが、夏場の暑さ対策をしっかりと、学習環境を整備する必要があることから、エネルギー効率に優れた建物にしたいと考えている。</p>
⑱	<p>第4回専門委員会（現地調査）[農業大学校]</p> <p>年間の寮費等はいくらか。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>全寮制で寮費等 17 万円、食費 30 万円となっている。</p> <p>また、教材費等は 23～34 万円と学科によって異なるが、授業料 118,800 円と全て合わせても年間 100 万円未満である。事例研究として、東京や神戸に行くための旅費も含んでいる。</p>
⑲	<p>第4回専門委員会（現地調査）[農業大学校]</p> <p>県外からの入学者は、卒業後の県内定着率が高いとのことであり、移住・定住にも効果があると感じた。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>—</p>
⑳	<p>第4回専門委員会（現地調査）[農業科学博物館]</p> <p>農業大学校に集約後は、非常に規模が小さくなるが、農業科学博物館のどの機能がどこに集約されるのか、例えば収蔵機能がどのように維持されるのか、次回教えて欲しい。</p>	<p>【農業普及技術課】</p> <p>今回説明（資料No.3）</p>

大規模事業評価についての県民意見募集の実施結果

1 意見募集の実施状況

(1) 意見募集を行った事業（事前評価 1 件）

- ・ 岩手県立農業大学校施設整備事業（金ケ崎町）

(2) 意見の募集期間

令和 7 年 11 月 12 日（水）～12 月 11 日（木）

(3) 公表方法

- ・ 行政情報センター、行政情報サブセンター等への資料配架
- ・ 県公式ホームページへの資料等掲載
- ・ 報道機関への発表
- ・ 県広聴広報課 X（旧ツイッター）
- ・ エフエム岩手 ラジオ放送
- ・ 金ケ崎町広報

(4) 意見の募集方法

郵送（持参含む）、ファクシミリ、電子メールによる意見提出

2 意見の提出状況

- ・ 岩手県立農業大学校施設整備事業（金ケ崎町）

郵便	ファクシミリ	電子メール	意見提出件数
1	0	0	1

意見検討結果一覧表

（案名：大規模施設整備事業事前評価についての意見募集

対象事業：岩手県立農業大学校施設整備事業（金ヶ崎町）

番 号	意 見	検討結果（県の考え方）	決定への 反映状況
1	<p>岩手県立農業大学校の整備事業については、「岩手県立農業大学校の機能強化に向けた基本構想」を踏まえ、人口減少や農業の実態に即して定員を見直し、充実したカリキュラムを実施するための教育環境を整備することは、事前評価関係資料（様式1の2）に記載された事業目的および事業の特徴を達成するうえで妥当な取組であると考えます。</p> <p>しかしながら、農業科学博物館を複合化の対象とする理由については疑問が残ります。</p> <p>1. 農業科学博物館の複合化に向けた検証が不十分である点について</p> <p>資料では、事業の必要性として「入館料収入が低迷している」との記載がありますが、入館者数増加に向けた取組の検証や改善の経過が示されていません。入館料の低下を理由の一つとして複合化を行うことは論理の飛躍ではないでしょうか。</p> <p>また、農業ふれあい公園条例第1条には「農業に関する資料の展示及び研修の実施、体験的学習の場の提供により、県民の農業に対する理解を深めること」と明記されていますが、現状、その目的に沿った取組が継続的に行われているか不明です。</p>	<p>1. 農業科学博物館の複合化に向けた検証が不十分である点について</p> <p>農業科学博物館では、これまで、農業ふれあい公園条例の趣旨に基づき、常設展示や年2回の企画展の開催により、所蔵している農具や民具等の資料の展示を行うことで、県民の農業に対する理解を深める取組を実施してきました。</p> <p>また、平成11年度からは、隣接する農業研究センターの公開デーに合わせた展示・実演のほか、通年での研究成果の展示を実施しています。</p> <p>さらに、令和3年度からは、子どもたちの夏休みや冬休みに合わせて体験学習会の開催を年2回行うなど、展示や企画内容の充実を図りながら、継続的に、入館者数の増加に努めてきましたが、コロナ禍以降は、利用者数が低迷している状況です。</p>	F（その他）

番 号	意 見	検討結果（県の考え方）	決定への 反映状況
1の 続き	<p>発行されている「農業ふれあい公園だより」を拝見した限り、農業従事者を志す層への体験型学習よりも、公民館等で実施されるワークショップ形式のイベントが中心となっており、条例の目的や入館数の増加に資する内容といえるのか疑問があります。</p> <p>加えて、「岩手県立農業大学校の機能強化に向けた基本構想」では、博物館についてわずか3行の記載（P21）にとどまり、複合化の経緯・比較案・将来の在り方等に関する検討は示されていません。</p> <p>検討資料が存在する場合は、事前評価資料に資料名等を追記のうえ明示されることを求めます。</p> <p>2. 岩手県公共施設等総合管理計画における農業科学博物館の位置付けと複合化の妥当性について</p> <p>農業科学博物館は、「岩手県公共施設等総合管理計画」においてどのように位置付けられているのでしょうか。また、農業科学博物館の個別施設計画は存在するのでしょうか。同計画では、体育館・博物館・ホール等について「集約化・複合化による効率的な運営」が方針として示されています（計画 P31）。今回の複合化は、当該計画の集約化方針に沿ったものなのか明確に示す必要があると考えます。</p> <p>農業科学博物館は一般的な博物館と異なり、他都道府県で設置されていない場合も多く存在します。また、いわて農業生産強化ビジョンの策定により、農林水産業費の執行は選択と集中の下で行う必要があると考えます。したがって、農業科学博物館の「廃止」も選択肢の一つとして検証すべきと考えますが、どのように評価されたのか説明を求めます。</p>	<p>こうした利用状況も踏まえ、下記2のとおり、今後の施設の在り方について検討しました。</p> <p>2. 岩手県公共施設等総合管理計画における農業科学博物館の位置付けと複合化の妥当性について</p> <p>農業科学博物館は、公共施設のうち「県民利用施設」に位置付けられていますが、今回の複合化は、令和7年12月に公表された「第2期岩手県公共施設等総合管理計画」における「個別施設計画」の方針に沿ったものであり、公共施設カルテを活用し、施設の利用状況や維持管理コスト、老朽化の度合い等について、定量的・定性的な両面から評価・分析を行った結果、施設の機能の方向性について「複合化」と評価しました。</p> <p>※ 別添「令和7年度第5回岩手県大規模事業評価専門委員会資料（抜粋）」を参照ください。</p>	

番 号	意 見	検討結果（県の考え方）	決定への 反映状況
1の 続き	<p>3. 人件費の考え方について</p> <p>現在の農業科学博物館の職員数は何名でしょうか。</p> <p>また、令和6年度決算における人件費（共済費含む）はいくらでしょうか。</p> <p>事前評価資料の収支計画には人件費の記載がなく、全体財政の把握が困難です。複合化により職員配置の効率化を図る認識でよいのか明確にしていきたいと考えます。</p> <p>収入見込が年間約1,000万円と、職員1名分の人件費にも満たない規模であることを踏まえると、人件費の抑制や適正配置は不可欠です。</p> <p>単なる定年後再任用の配置ではなく、現場で岩手の農業を牽引できる意欲ある人材の配置を強く求めます。</p>	<p>3. 人件費の考え方について</p> <p>現在の農業科学博物館の職員数は、会計年度任用職員の3名で、令和6年度決算における人件費（共済費含む）は7,668千円となっています。</p> <p>合築後の職員配置については、効率化を図りながら、合築後の農業大学校施設全体の中で、適正な配置を検討していきます。</p>	

「決定への反映状況」欄には、次に掲げる区分。

区 分	内 容
A（全部反映）	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B（一部反映）	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C（趣旨同一）	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D（参考）	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E（対応困難）	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの
F（その他）	その他のもの（計画等の案の内容に関する質問等）

大規模施設整備事業事前評価 継続審議資料

事業名	頁
岩手県立農業大学校施設整備事業（金ヶ崎町）	10～17

岩手県立農業大学校施設整備事業

（所在市町村：金ヶ崎町）

補足説明資料

農林水産部 農業普及技術課

1

本日の説明事項

- 1 「農業大学校の機能強化に向けた基本構想」等の検討過程
- 2 「農業大学校の機能強化に向けた基本構想」等に係る意見交換
- 3 施設整備計画（施設整備内容及び諸室規模の想定）
- 4 農業科学博物館について【パブリックコメント関連】

2

1 「農業大学校の機能強化に向けた基本構想」等の検討過程

令和2～3年度：農業大学校の在り方に関する検討

- ・ 農業従事者の減少・高齢化、経済のグローバル化の進行など本県農業を取り巻く環境の変化や将来の姿を見据え、今後、**農大が果たす役割や必要となる機能**などを取りまとめるため、令和2年9月、**学内**の教授等で構成する**検討委員会**（委員長：農大校長）及び准教授等で構成する**作業部会**を設置
- ・ 令和3年度までに検討委員会を3回開催し検討を重ね、**令和4年2月、取りまとめ**

<取りまとめ内容>

農大の**現状と課題**、農業大学校を取り巻く**情勢変化**、**育成しようとする農業人材像**、**具体的方策**（教育内容の充実強化など**人材の育成**、教育施設の**整備の視点**）

令和4年度：上記取りまとめを踏まえ、カリキュラムの見直しを実施

- ・ ロボットやAI、IoT等の先端技術を活用し、労働力不足や生産性向上に対応するため「**スマート農業**」の**科目を新設**
- ・ 中小企業診断士や農業法人などの外部講師による**経営管理**に関する**講義内容の充実・強化**

令和5年度：施設整備の具体化に向けた検討

- ・ 老朽化が進む**教育施設**について、**具体的な整備内容**を検討するため、令和5年9月、農林水産部**関係室課**や**農業大学校**、**農業研究センター**で構成する**検討委員会**（委員長：農政担当技監）及び**作業チーム**を設置

<主な検討内容>

- ・ 将来を見据えた**施設整備の方向性**
- ・ **他の県施設との集約**による農大の**機能強化**の可能性（メリット・デメリット）
- ・ **改築・新築**に係る**パターン別の比較検討**（建築費、解体費、ランニングコストなど）
- ・ 農林水産省事業（農業教育環境整備事業）、デジタル田園都市国家構想交付金、地域活性化事業債など**財源の比較**

3

1 「農業大学校の機能強化に向けた基本構想」等の検討過程

令和6年度：「岩手県立農業大学校の機能強化に向けた基本構想」の策定に向けた検討を開始

- ・ 過去20年間の**入学生・卒業生の動向**や、農業を巡る**社会情勢の変化**、老朽化が進んでいる**施設の現状**等を踏まえて、農大の今後の**在り方**や**施設整備**に係る検討を開始
- ・ 基本構想の策定に向け、令和5年度に設置した検討委員会での検討に加え、**育成すべき人材像**や農大の更なる**機能強化に向けた取組**などを中心に、全ての県立**農業高校学校長**をはじめ、学生の**研修受入農家**や、卒業後の雇用就農先である**農業法人**等と**意見交換**を実施
- ・ **農大近隣の県有施設との連携や統合**による**機能強化**の検討を実施

令和7年度：基本構想及び整備基本計画の検討・策定

- ・ 基本構想等について、**幅広い観点からの意見を伺う**ため、学識経験者等**15名**が参画する「岩手県立農業大学校基本構想等策定**検討懇談会**（以下「**検討懇談会**」という。）」を設置

6～7月 **第1回検討懇談会**等において、**基本構想（素案）**について**意見交換**

9月 **第2回検討懇談会**において、**基本構想（最終案）**、**施設整備の方向性**について**意見交換**

10月 「岩手県立農業大学校の機能強化に向けた**基本構想**」の**策定**

11月 **第3回検討懇談会**において、**整備基本計画（案）**について**意見交換**

4

2 「農業大学校の機能強化に向けた基本構想」等に係る意見交換

(1) 意見交換の開催経過（令和7年度）

	意見交換（対象・日時・参加者数）
基本構想（素案）	<ul style="list-style-type: none"> 第1回検討懇談会（外部有識者等、6/17、14人） 在学生との意見交換（農大在学生、7/7、14人） 卒業生との意見交換（農大卒業生、7/11・16、3人） 研修生との意見交換（新規就農者研修生、7/18、20人）
基本構想（最終案）	<ul style="list-style-type: none"> 第2回検討懇談会（外部有識者等、9/11、11人）
整備基本計画（案）	<ul style="list-style-type: none"> 第3回検討懇談会（外部有識者等、11/6、11人）

(2) 検討懇談会の構成員

区分	所属等
学識経験者 4名	農林水産省経営局就農・女性課、岩手県立大学総合政策学部、岩手県高等学校教育研究会農業部会、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター
農業関係団体 2名	岩手県農業協同組合中央会営農農政部、社団法人岩手県農業機械協会
農業者組織 3名	岩手県農業農村指導士協会、岩手県農業法人協会、岩手県農村青年クラブ連絡協議会
同窓会・父母会 2名	岩手県立農業大学校同窓会、岩手県立農業大学校父母の会
農業者等 4名	盛岡市、久慈市、一関市、雫石町

5

2 「農業大学校の機能強化に向けた基本構想」等に係る意見交換

(3) 素案に対する主な意見への反映状況

項目	主な意見	反映状況	該当ページ
1 本科 (学生教育) ・定員・学科の見直し	志願者数に応じた定員の運用の考え方を示してほしい	志願者数が定員を上回る場合は、柔軟に対応していく旨を追記	16
	志望コースが明確な学生は入学時から専門コースに分かれる方が良い	学生の意向や履修状況を踏まえ、1年生から2年生の専攻実習を選択可能にするなど柔軟に対応する旨を記載	16
	最新の試験研究成果を学ぶカリキュラムとしてほしい	最新の研究成果等を学べるよう試験研究機関との連携を強化する旨を記載	19
4 運営体制・学生等の確保 ・学生、研修生の確保	子育て世代にも届く内容の発信が必要	小中学生や子育て世代など幅広い世代に農大の取組等が届くよう努めていく旨を追記	20
・全寮教育の見直し検討	寮生活におけるコミュニケーションは大事だが、時代に合わせた運用を検討してほしい	希望入寮制について、「検討」を「導入」に修正	20

(4) 最終案に対する主な意見への反映状況

項目	主な意見	反映状況	該当ページ
4 運営体制・学生等の確保・農業高校との連携強化	先進農家と連携し、魅力ある職業であることを農業高校生等に伝えることが大事	新たに「農業高校との連携強化」の項目を追加し、先進農家等による講義と一緒に聴講できる授業や高校生への卒業研究等の活動紹介を行う旨を追記	19、20

6

3 整備計画（施設整備内容及び諸室規模の想定）

施設整備計画の全体像

各部屋の面積は、基本設計後に確定するもので、現在は試算に基づく想定面積

区分	主な部屋等 (下線部は集約後に新設するもの)	整備前	整備後	増減	増減理由
農大	職員室、校長室、印刷室、進路指導室、講師控室、宿直室、会議室(会議室兼講義室)	499.4	353.9	▲145.5	職員室等：国基準による減 会議室：講義室兼用による減
	保健室、倉庫、更衣・シャワー室、機械室	223.7	302.9	79.2	更衣・シャワー室、機械室の新設による増
	講義室、大講義室、会議室兼講義室	1,292.9	624.0	▲668.9	県立高基準や定員に合わせた減
	調理実習室・準備室、展示室	145.8	195.8	50.0	展示室の集約による増
	用途廃止済の部屋	916.6	0	▲916.6	整備不要
	玄関、廊下、トイレ等	541.0	448.2	▲92.8	施設総面積に応じた減
	小計	3,619.4 (2,702.8)	1,924.8	▲1,694.6 (▲778.0)	括弧内は用途廃止の部屋を除いた面積
博物館	展示室	750.0	0※1	▲750.0	農大に集約、既存施設活用のため減
	収蔵庫	300.0	0※2	▲300.0	空き施設活用のため減
	企画展示コーナー、事務室・トイレ・ロビー等	504.1	0※3	▲504.1	整備不要
	小計	1,554.1	0	▲1,554.1	
合計	5,173.5	1,924.8	▲3,248.7		

- ※1 展示スペースは最小限とし、デジタル技術等を活用した展示方法を検討
 ※2 収蔵庫は、他部局所管施設等の空き施設の利用を検討するため整備しない
 ※3 ロビー・事務室等は、合築により不要となるため整備しない

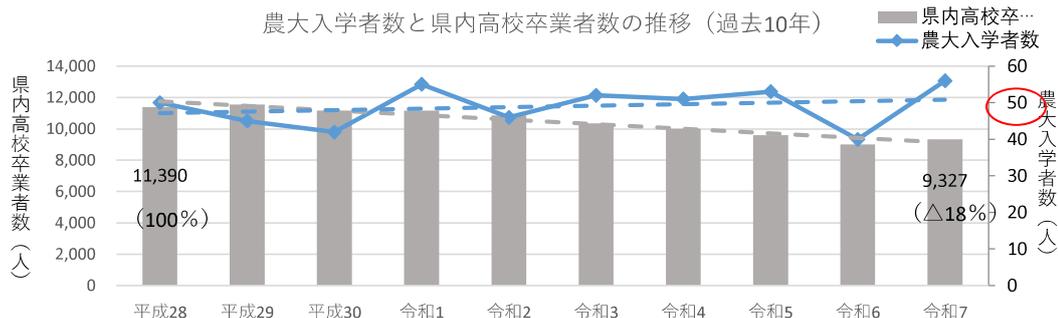
7

3 整備計画（施設整備内容及び諸室規模の想定）

施設整備計画の全体像

	開校当時 (S56)	整備後	増減比
コース数	3 課程 (8 専攻) 農産課程 (農業、園芸、果樹、蚕業) 畜産課程 (酪農、肉牛、養豚) 生活課程	2 学科 6 コース 農産園芸学科 (農産、野菜、果樹、花き) 畜産学科 (酪農、肉畜)	-
定員	130人/学年 × 2 学年	50人/学年 × 2 学年	38%
施設面積	3,619.4㎡	1,924.8㎡※	53%

※ 農業科学博物館部分を含む



- 注1：横軸は、卒業年（各年3月）と入学年（各年4月）
 注2：高校卒業生数（～令和6）は学校基本調査より。令和7年は令和6年12月末現在の数値。

開校当時からの入学定員の減少を踏まえて、適切な規模を検討した。

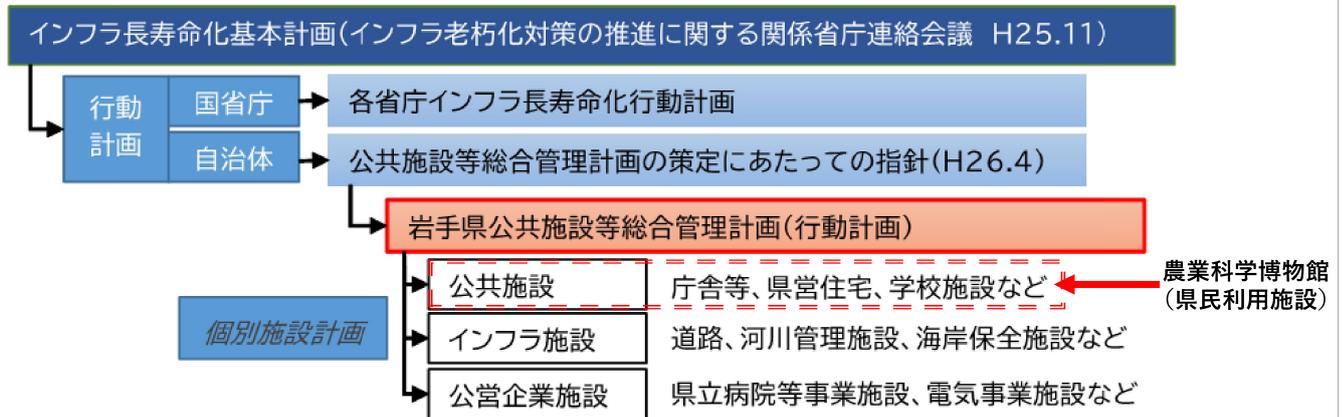
8

4 農業科学博物館について【パブリックコメント関連】

第2期公共施設等総合管理計画について

令和7年12月に、令和7年度から令和16年度までを計画期間とする、第2期岩手県公共施設等総合管理計画を策定。

岩手県公共施設等総合管理計画の位置付け（第2期岩手県公共施設等総合管理計画から抜粋）



11

4 農業科学博物館について【パブリックコメント関連】

第2期公共施設等総合管理計画について（続き）

施設類型ごとの管理に関する基本的な方針のうち、第2期計画における取組（抜粋）

個別施設計画（一部抜粋）

新たな管理目標や中長期財政見通しを踏まえて、個別施設計画の見直しを行っていきます。

県有施設のあり方検討

個別施設計画において今後の方向性が「現状維持」以外の施設については、ハード・ソフト両面からの施設のあり方について具体的な検討を実施し、施設の統廃合、売却等を確実に進めていきます。

【県民利用施設】

総論

老朽化に伴う維持管理や修繕、更新等に要する経費の増大が懸念されることから、公共施設カルテを活用し、施設の利用状況や維持管理コスト、老朽化の度合い等を定量的・定性的に評価することで、施設規模・総量等の適正化を図るとともに、部局横断による計画的な維持管理・施設の統廃合を推進していく。

統合や廃止の推進方針（抜粋）

- 公共施設カルテを活用し、施設の利用状況や維持管理コスト、老朽化の度合い等について、定量的・定性的な両面から評価・分析を行い、施設ごとの今後の方向性に応じて在り方検討を行い、施設規模・総量の適正化に取り組む。

12

4 農業科学博物館について【パブリックコメント関連】

県立農業科学博物館（農業ふれあい公園）の個別施設カルテの評価

機能の方向性	複合化
建物の方向性	解体
説明	設置目的と現状との乖離が否めず、 実質的に利用者が限定 され利用者数も 低迷 しているところ。このため、社会環境の変化に合わせた 施設の機能の効果的な発現 に向け、機能の異なる施設と合築する複合化を図る必要があり、 複合化・解体が適当 と考えられる。
評価の分析	消費者への農業理解や農村部における農業の社会的意義の再認識等を促進する場として設置されたが、生産者と消費者をつなぐ流通が登場するなど、設置目的の有効性が希薄となっている。

「利用状況」と「経費効率」による評価

- ・利用者数は減少傾向であり、令和5年度の利用者数はコロナ前から22.7%の減少
- ・経費効率が悪く、抜本的な見直しが求められる

	コロナ前（H30とR1平均）	R5年度	増減
入館者数	5,939人	4,588人	▲22.7%

「建物性能」と「利用状況+経費効率」による評価

- ・電気設備、外壁、屋根等の改修等に多額の経費が見込まれている。(R6年度時点の見通し)

	1年目	2年目	3年目	4年目	計（4か年）
内容	電気設備	電気設備	電気設備、外壁、屋根	電気設備	
金額	52百万円	76百万円	82百万円	35百万円	約2億5千万円

13

4 農業科学博物館について【パブリックコメント関連】

設置目的に沿った取組について

農業ふれあい公園条例（抜粋）

第1条（設置）

農業に関する資料の展示及び研修を行うとともに、体験的学習の場を提供することにより、県民の農業に対する理解を深めるため、農業ふれあい公園(以下「公園」という。)を次のとおり設置する

常設展示や企画展（年2回）で所蔵している農具・民具等を展示

「農業ふれあい公園だより」を発行（年1回）

入館者数の増加に資する取組について

- ・農業研究センター公開デーに合わせた**展示、実演**等の実施：平成11年～（年1回）
- ・農業研究センターの**研究成果展示、ミニ展示企画**の実施：平成11年～（通年）
- ・棚田や加工工房を使った農業体験の実施：平成11年～令和2年
- ・**体験学習会**の開催（夏休み、冬休みなど）：令和3年～（年2回）

年度	R4	R5	R6
実施回数・参加人数	2回・21人	2回・40人	2回・19人

入館者数の状況

- ・過去3か年平均（R4～R6年度） 4,289人/年（コロナ禍前：3か年平均（H28～H30） 7,443人/年 ▲42.4%）
- うち有料入館者（一般320円/人、学生150円/人） 1,498人/年（35%）
- 無料・免除入館者（園児・小学生、中高生等） 2,791人/年（65%）

【参考】入館料収入（R4～R6年度） 420,330円/年

14

4 農業科学博物館について【パブリックコメント関連】

職員数と人件費

- **農業科学博物館の職員数**（令和6年度配置）

会計年度任用職員3名

事務補助等1名（週5日勤務）

資料調査員2名（週4日勤務、年115日勤務）

- **農業科学博物館の人件費**（令和6年度決算）

7,668千円（共済費含む）

合築後の職員配置

合築後の農業大学校施設全体の中で、

今後適正な配置を検討していく

経費効率や建物性能の点を踏まえて、**農業大学校との集約化**により、農業大学校の教育・研修機能に加え、岩手の農業に関する資料の展示や研修、学習の場の提供など、**農業大学校の魅力向上を図る、機能の複合化を検討**した。

答 申 書(案)

令和8年 月 日

岩手県知事
達 増 拓 也 様

岩手県政策評価委員会
委員長 吉 野 英 岐

大規模事業評価について（答申）

令和7年11月5日付け政第103号で諮問のあった大規模施設整備事業の事前評価について、次のとおり答申します。

記

1 岩手県立農業大学校施設整備事業（金ヶ崎町）

【審議結果】

「事業実施」とした県の評価は（妥当・妥当ではない）と認められる。（ただし、次の意見を付す。）

例示

- ・「〇〇〇〇」とした県の評価は〇〇と認められる。
- ・「〇〇〇〇」とした県の評価は〇〇と認められる。ただし、次の意見を付す。
 - (1)・・・すること。
 - (2)・・・すること。など

審議結果報告(案)

令和8年 月 日

岩手県政策評価委員会

委員長 吉野英岐様

岩手県大規模事業評価専門委員会

専門委員長 狩野 徹

大規模事業評価に係る答申について

令和7年11月5日付けで諮問の通知のありました大規模施設整備事業の事前評価について、令和8年〇月〇日開催の第〇回大規模事業評価専門委員会において、全ての調査審議が終了し、次のとおり答申を決定しましたので報告します。

記

1 岩手県立農業大学校施設整備事業（金ヶ崎町）

【審議結果】

「事業実施」とした県の評価は（妥当・妥当ではない）と認められる。（ただし、次の意見を付す。）

例示

- ・「〇〇〇〇」とした県の評価は〇〇と認められる。
- ・「〇〇〇〇」とした県の評価は〇〇と認められる。ただし、次の意見を付す。
 - (1)・・・すること。
 - (2)・・・すること。など